

**公益財団法人 第五福竜丸平和協会**  
**平成24年度事業計画**

2012年は第五福竜丸被災58年、建造65年に当たる。東日本大震災と福島原発事故は第五福竜丸ビキニ被災事件がもたらした放射能禍への再認識を促した。本年の諸企画はこうした状況も踏まえて展開していきたい。

また、2014年に被災60年を迎えるので記念事業のプロジェクトを立ち上げる。

**1. 公益目的事業**

東京都の受託事業としての第五福竜丸展示館の管理・運営が当法人の基本的な事業である。開館日は、定められた休館日を除き308日となる。

引き続き、団体見学をはじめ全ての来館者に対するガイド・解説を実施する。来館者の増加のため広報活動を積極的に行う。

第1回展示替として、企画展「建造65年 第五福竜丸からラッキードラゴンへ」を4月24日から6月24日まで開催する。

1947年の建造から65年を迎える希少な木造船の歴史をたどり、第五福竜丸のめざす核・被ばくなき航海への願いを発信する。あわせて、現代アーティストヤノベケンジ氏が制作したラッキードラゴン（方舟）の映像展示、アトムスーツ人形、サン・チャイルドなどのアート作品展覧会を開く。

この間、5月13日にヒロシマの被爆ピアノを迎えて展示館内で、平和への願いと核なき未来への希望を込めた演奏会を行う。

第2回目は、企画展「マーシャル諸島の人々はいま」を7月初旬から12月末まで開催する。

被爆から58年を経て本年後半、ロンゲラップの人々3~400人が帰島する方向で準備が進んでいる。当協会専門委員で40年近くマーシャルの核被害を追いつけてきたフォト・ジャーナリスト島田興生氏、協会評議員の日塔和彦氏、デザイナー上浦智宏氏、カメラマン河田透氏らは本年2月下旬からマーシャル諸島を訪問し、マーシャル被ばく者との交流を行っている。その最新の情報をもとに上記企画展は実施される。

2014年は第五福竜丸事件60年に当たる。第五福竜丸と展示館の存在を内外にひろめ、「核」の問題を提起し、当協会の事業への支持賛同と支援の輪を広げる機会としたい。現在検討中の企画は以下の通りである。

- ① 新しいデータも取り入れた新版『図録』の制作
- ② 第五福竜丸についての簡便な学習パンフレット、絵本等の出版
- ③ この10年余の間に得られた新たな知見・成果を報告・発表する学術研究シンポジウムの開催を検討する。また、豊崎博光専門委員の研究成果・資料等を基に若手研究者を含めた勉強会をスタートさせる。
- ④ 船体の修復保存、エンジンの保存について検討作業を継続し、都への申入れの方法についても検討する。
- ⑤ 常設展示の一部をリニューアルする。
- ⑥ これらの事業を推進するため全国的な募金活動を準備し展開する。